

コーダ あいのうた
(米仏加・2021)



楽譜上の記号Coda (コーダ) は楽曲の完了を強調する部分を意味する。一方、大文字でC O D Aと書くと、children of deaf adultsの略号になる。『大辞泉』には「聴覚障害のある親をもち、自身は聞こえる人」と出ている。本作のタイトルはそのダブルミーニングである。主人公のルビーは四大家族で、漁師である父と兄、魚をさばく作業で働く母がいる。ルビー

以外は全員聾啞者である。つまり、ルビーはC O D Aなのだ。健聴者のルビーがいなくては陸からの無線が聞こえないなど不都合が多い。そこで高校生のルビーは毎朝三時に起きて父・兄とともに漁船に乗っていた。当然、学業はおろそかになり授業中は睡魔に襲われる。大学進学はとうにあきらめ、高校卒業後は「専業」漁師になるつもりでいた。

新学期になり自分が好意を寄せるマイルズがコーラス部に入ると知って、下心からルビーも入部する。実は、映画の冒頭で漁をしながらルビーは大声で歌っている。それがここにつながるのだ。部の顧問の教師はルビーの高い歌唱力に気づき、自宅にマイルズとともに招いて個別レッスンをはじめ。やがて、めきめき上達するルビーに教師は名門音楽大学への進学を勧めた。距離が縮まったマイルズも進学を希望

していた。マイルズも夢も失いたくない。一方で自分がいなければ、一家は路頭に迷うことになる。出漁にあたって健聴者の同乗は法的義務なのだ。両親はもちろん反対する。悩み深いルビーを、兄は家族の犠牲になると叱り飛ばす。それでもルビーは進学しないと両親に伝える。こうして迎えたコーラス部の秋のコンサートでルビーは美声を響かせる。両親と兄もコンサートに来ていた。ルビーの歌唱中、一分ほど映画は無音になる。観ている者は耳が聞こえないとはどういうことを体験させられる。この演出にはうなった。ルビーが歌い終わったあと万雷の拍手に会場は包まれる。これをみた両親はルビーの実力を認識する。

さて、ルビーは音大のオーディションを受ける

ことになった。ここまでこぎつけた経緯から緊張しているルビーに、審査員たちは容赦ない質問を浴びせる。気を取り直してルビーは歌いはじめるが全く自分を見失っていた。ところがピアノ伴奏が弾き間違える。伴奏した顧問の教師の仕業だった。歌い直しとなり、ルビーは本来の美声を取り戻す。さらに客席に両親と兄がいるのに気づいて、手話を交えて心揺さぶる歌に仕上げる。このシーンには涙が止まらなかった。

ルビーが音大入学のため実家を出る際に、父親は「go」と言って送り出す。ルビーのそれまでを曲にたとえればCodaが奏でられ一曲目は終わったのだ。そして次の曲、新しいはじまりを暗示してエンドとなる。

両親と兄の役には聾啞者の俳優が起用されている。彼らと対等に手話を演じたルビー役のエミリア・ジョーンズはすごいと思った。家に遊びに来たマイルズの前で、両親が手話で性まつわるあけつびろげな会話をして、ルビーが通訳に困るシーンには爆笑した。

サブタイトルがひらがなののは、手話では漢字を表せないからなのか。あいにあふれる映画だった。祝！アカデミー賞受賞。

(二〇二二年二月六日・T O H O シネマス新宿)

(にしかわ・しんいち/明治大学教授)